

ももとせ

第421号

29年度10月

中野区立桃園小学校

「近代教育の実現と学力」

副校長 井上 江見子

桃園小学校は、明治8年に開校しました。宝仙寺本堂を仮教場とし、児童数97名でした。

本校の校名は、江戸時代、八代将軍徳川吉宗公が鷹場へ行く途中にたくさんの桃の樹を植え、美しい桃園をつくった故事と優雅な名に因み付けられたそうです。

では、当時の教育はどのように行われていたのでしょうか。江戸時代末の教育機関には、藩校・私塾・寺子屋などがあります。庶民の初等教育の機関として重要な役割を果たしていたのが寺子屋でした。明治初めの一般教育の多くは、寺子屋で行われていました。本校創立50周年記念誌によると、中野の5つの寺子屋が記されています。これらの寺子屋は、明治8年の桃園小学校の開校と同時に殆ど廃止されましたが、その師匠たちの授業ぶりは、かなり厳格なものだったそうです。こうして、近代教育の実現を目指し、桃園小学校は開校したのです。

当時の小学校の校則とは、どのようなものだったのでしょうか。『第三中学区第一番公立小学設立伺』の一部を紹介します。

「生徒は入学したら学校の規則に従い教官の指揮に従う。病気事故の時は父兄から断書を差出す」

「八時に出校四時に放散、九時から三時まで五時間学習（十一時～十二時は休息时间）」

「学習中は、席を離れたり、雑談、飲食をしたりしてはいけない」

「休息时间には外に出る」

現在の「桃園小学校のやくそく」と同じものがあります。学校で学習する時間もほぼ同じです。明治時代から同じような規則が続いているのです。

明治時代も現在も学校とは、学習する場であり、集団生活を通して社会性を学ぶ場です。保護者の方の協力のもと、学校と一緒に子供を育てていく場所です。

さて、現在の学校教育を考えていく時に学力向上と結びつく要素は何なのでしょう。

5年生に実施された東京都の学力調査「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果が出ました。児童質問紙と教科のクロス集計に興味深い結果が出ています。

『きまりを守るのは大切』の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた子供の算数正答率が65.8%に対し「そう思わない」「思わない」が48.4%でした。他教科で10%以上の違いでした。また、『朝食を食べる』の項目で「必ず」「たいてい」と答えた子供の算数正答率が66.1%に対し「食べないことが多い」「ほとんど食べない」が28.1%でした。他教科で20～30%以上の違いでした。

つまり、きまりを守る意識が高い子供、朝ご飯を食べている子供の正答率が高かったという結果です。この2つがしっかりできれば学力が向上する可能性が高いことを数字が示しています。学校教育と家庭教育の連携があってこそ、子供の学力がより伸びていくと言えます。近代教育が始まった明治時代も今も、大事なことは、きまりを守ることや生活習慣であると考えます。

家庭・地域・学校が連携して、この桃園地域の子供を育てていきたいものです。学力だけでなく、心身の発達や人との関わりを学びながら社会性を身に付け、社会に旅立っていくことを願ってやみません。

今月の6日には前期終業式があります。「あゆみ」をお渡しします。学校生活でよかったことを振り返り、この半年間の成長をご家庭で話し合ってみてください。前向きに取り組んでいけるよう学校でも指導してまいります。

三科真澄先生のソフトボール教室

諦めないで最後まで頑張ること、友達を大切にすることを情熱的にお話しくださいました。子供たちにも教員にも心に響くものでした。今後12月9日(土)には、車椅子ラグビーの選手が来校します。

今月のめあて

【生活】話をしっかり聞こう 【安全】安全に気を付けて廊下や階段を歩こう

【給食】何でも食べることの大切さを知ろう 【保健】目を大切にしよう

